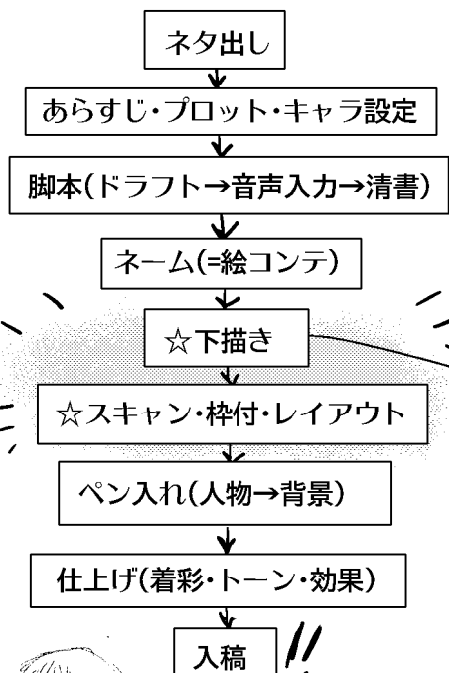


陽気婢的電腦作画

…と言っても、特に変わったことはしてないんですが、何年かデジタルで描いて、作業工程もほぼ固まってきたので覚書も兼ねて紹介させていただきます。全体の流れとしては、左下図のようになります。今回は☆印をつけた下描き～スキャン・枠付・レイアウトについて。

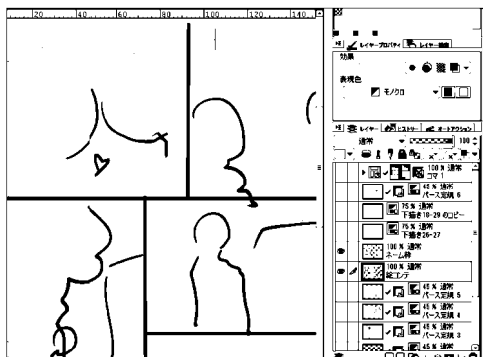


自分の場合、ネタ出しから脚本・ドラフトまでアナログ、一旦デジタル作業に入り、ネームが出来たらそれを見ながら、再びアナログに戻り下描きをします。ここでは、A4コピー紙1枚に原稿1ページ分を、B～2B/0.5mm芯のシャープペンとMONO消しゴムで描いていきます。(同人作品や、気分に応じてA4横1枚に見開き2ページ分を描き込むこともあります。)

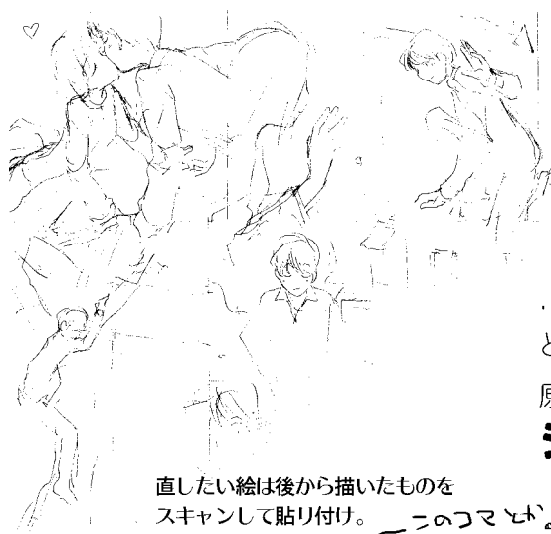
…A4コピー用紙にシャープペンで
ニワカハル。

ネームの絵は、スピード重視で仮決めっぽい荒っぽさがある一方、下描きの絵は最終的な仕上がりを意識した本決めの感じ。ただし各コマの大きさや背景上の人物配置・全体のバランス等はスキャン後の枠付け・レイアウトで調整できるので、キャラのポーズとアクション重視の作画が可能となります。これってデジタル作画の大きな恩恵ではないかと。大きな利点ではないかと。(アナログだった頃は、ポーズが掛けても全体のバランスが良くないと描き直したり、拡大・縮小コピーしたのをトレスしたりしていましたから。)

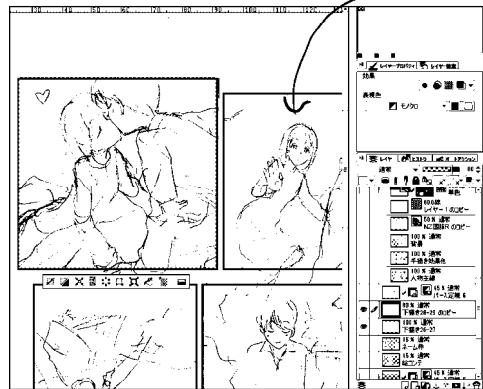
…それに、まあイベントとかサイン色紙とかで、紙に直接描く機会も、この先まだまだあると思うんで、自分の中にアナログ的な感覚を残しておきたいというのもあったりするんですね。



ネームを見ながら下描き。↓

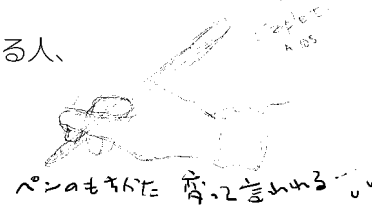


直したい絵は後から描いたものをスキャンして貼り付け。このコマは。



絵とフキダシなどを考慮しつつ、選択範囲でコマを拡張・移動。

……以上、似たような方法で描いている人、他にもいるんじゃないかな？



ペンもきたた 腐、と言わゆる。

そんなこんなで、昔から下描き作業、結構好きで、シャープペンの線画も(モノによっては仕上がった原稿よりも)気に入ってたりするんですが、アナログ原稿の頃はペン入れ後の「消しゴムかけ」で容赦なく消される運命でした。ところが、デジタルだと下描きレイヤーの表示をオフにするだけで、元の鉛筆線は残るし、それどころかスキャン元のA4用紙の「シャープペン原画」がそのままどんどん溜まっていくことになりました。

…って訳で、このままずっと自分で保存しとくのもアレですし、どうしようかなあと考えてたんですが今回、陽気婢が主に商業原稿で使った「ドクター&ドクター」以降のシャープペン原画を大放出します!!



左記の作業工程で、他に知りたいトピックなどありましたら、Twitterなどで陽気婢にアクセスしてみてください。

ではまた～っつ。

2016 陽気婢